

公益社団法人長岡法人会賞

税金と私達の生活

新潟大学附属長岡中学校

三年 山谷 真里奈

私の父は小千谷市役所で働いている。だから私達家族は、小千谷市民の税金で生活している。仕事内容はなかなかハードだ。まず、台風や河の洪水の時は何か異常がないか確認する。夜中に電話がかかり、朝まで帰ってこないこともある。大変な仕事だと思いが、父は、これが仕事だから、と言ってお給料をもらっている。小千谷市民の方々が税金を納めているから私達は暮らせていると実感する。公共サービスは、あたり前をつくるためにあたり前に受けているが、その裏で父のように一生懸命守ってくれる人がいる。そのことを忘れてほしくないし、私も忘れたくないと思う。

私の弟は二度救急車で運ばれている。一度目は一才の頃、階段から落ちて頭から血が出た時だった。その日はおまつりの日で、「時間はかかりますが、行きます。」と言われたらしい。父も母も本当にほっとした、とよく言っている。救急車の中で泣いて怖がる弟に、大丈夫だよ、と声をかけて無事に病院へ着くことができた。処置は傷口をホチキスで止めて

あつけなく終わったそう。後日その隊員さんが同じ町内だと分かり、

「お世話になりました。わざわざ来ていただいてすみません。」
と言うと、

「それなら良かった。不安だったと思うから呼んでもらっていいですよ。」

と言われ、とても安心したそう。二度目の時もけいれんした弟を乗せてもらった。

家族が税金に関わっているの、私も税金によって作られるあたり前に感謝したい。また、そのために働く方々を尊敬している。

私は小学一年生の時に担任の先生から、

「教科書は、国のお金で買ってもらっているから、大切に使いましょう。たくさん学びましょう。」

と言われたことを時々思い出す。私の小学校は、設備が整っていてもきれいだ。それは全て、地域の人が私達のことを想ってくれたからできたものだ。本当に実感する。

今、地域で過疎化が進んでいる。残された住人だけで地域を守ることは難しい。そんな中だから、今よりも一人一人の負担が増えるだろう。それでも、最低限のくらしを守るために、私は働いて税金が納められるようになりたい。今までもこれからも、税金によって私達の生活は支えられていくことを忘れずに生きていきたい。